

長幼の序などがほぼつかないご時世ですが、運動部の先輩後輩の間にはいまでもその美風が厳然としてあります。体育は徳育と並行し、すいのでしよう。

関西学院大学に体育会功労賞があります。部ごとに四年間の活躍をおして技量・人物ともに優れた学生が顕彰されます。さらに昭和三十三年、四年度卒業生によって設けられた三四郎杯はその中から一人、学生の本分である勉学にも秀でてた者が選ばれる名誉ある賞です。今年にはゴルフ部のキャプテン、宮脇啓介君が授与されました。

昨年の関西学生ゴルフで春

そして卒業前の春の好目、千刈CCで倶楽部競技のダブルス戦が行われました。メンバーが誰かと組むダブルベリア。中村吉成さんはアルバイトキャプテンで顔見知りの宮脇君を、浅田憲治さんは良原君を招待して組みました。

千刈は関学OBのメンバーが多い倶楽部です。中村さんが「春秋連覇」と揮毫した色紙を配り、さらにその四文字をプリントしたゴルフキャップを作ってみんなが被るといってお祝いムードの高まる競技会となりました。

中村さんと浅田さんは五十年前の関学ゴルフ部の同期で、主将とマネジャーだったよし

AZAMI

あざみ

の教え

上級より
上質。
ゴルフマナー
修得講座

AZAMI(薔) スコットランドの国花。短い夏の、ラフに咲く可憐な花。花のなかのペダルを打とうとしたゴルファーに、その先住者は薔の花で、平和を導くしを導く権利はないの(とセント・アンドリューズの聖人フランシス卿が論じて、アンブレヤル宣言させたという逸話が残っている。

鈴木 康之
挿画●唐仁原教久

秋連覇という偉業をなしとげました。といっても宮脇君が選手として大活躍したわけではなく、四年生は副キャプテンの良原俊夫君とたった二人きりです。二人はゴルフは個人プレーだと思っていました。一年生次の団体戦からチームプレーのだいじを学んできました。

幸い二、三年生に伸び盛りの強い選手に恵まれました。二人はリーダー役、バックアップ役に徹し、チームの一体

化に専念しました。春季リーグで優勝、深い喜びを味わい、全国大会でもベスト4に入っていました。みんなが自信と誇りを共有しました。

秋季リーグは他の大学を寄せつけず、なんと全戦全勝で連覇。欣喜雀躍したのは彼らだけではありません。我がことのように快哉を叫んだのは関学ゴルフ部のOBたちでした。OB会あげての祝賀会が開かれたのは言うまでもありません。



みてす。しかもなんとという巡り合わせか、中村さんと浅田さんも、宮脇・良原コンビと同じで下級生に強い選手がいたため、選手としての出番がありませんでした。

七十二歳が二十二歳と、七十一歳が二十三歳と、四人並んで、この日のために詠えた

白いキャップを被ってフェアウェイを歩く喜びはいかばかりのものか、周回から温かい視線が送られました。

祝賀会の席で中村さんが宮脇君に言いました、「おれは関学ゴルフ部の歴代キャプテンの中でいちばん弱いキャプテンやった。下に蒲生だの加藤だのという凄いのがおつてな。だから、おれには、お前の気持ちがよくわかるんや。よう頑張ったな」と。

聞いていた宮脇君の目が潤みました。それを見て、中村さんの目も堪えられなくなりました。

ゴルフ部五十年目の巡りあわせ



ゴルフにはスコアよりもっと大切なことがある。

鈴木康之著 最新刊 『脱俗のゴルフ』 (小社刊) スピリット

新書判・並製 定価900円(税別)

すずきやすゆき
ゴルフマナー研究家 著書に「ピーターたちのゴルフマナー」(小社刊) などがある